

レンゲと水で雑草を抑える —— レンゲによる休耕田の雑草管理 ——

レンゲは日本の農村風景をいろどる春の風物詩である。レンゲの咲く田んぼはめっきり少なくなってしまうが、最近では、景観形成を目的に休耕田を活用してレンゲが播かれているのをよく見かける。レンゲをすきこむことで肥料として利用できることは知られている。しかしレンゲの役割は単なる緑肥だけにとどまらなかった。

本研究ではレンゲ等のマメ科の被覆植物を活用することで、休耕田の雑草を抑制できることが明らかとなった。



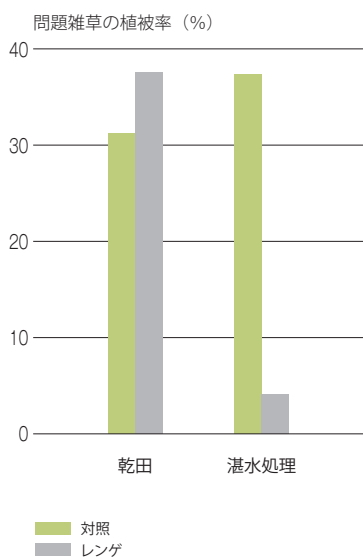
雑草を抑える効果があるレンゲ

ヘアリーベッチやクリムソンクローバーは生育が旺盛であり、被覆によって雑草を抑制した。特にヘアリーベッチはアレロパシーによる雑草抑制効果が知られており、休耕田の雑草抑制を目的とした被覆植物として優れていると考えられる。

一方レンゲは、生育量が少なく、残念ながら被覆によって雑草を抑制する効果は小さかった。ところが、レンゲの生えた休耕田に水を入れるとその効果は一変する。水を入れるとレンゲは枯れてしまうが、速やかに分解されて、休耕田の土壌表面に有機酸を含んだ有機物の層を形成するのである。これにより土壌表面が露出しているにも関わらず、雑草の発生は効果的に抑制された。

緑肥植物と不耕起を組み合わせた雑草抑制は、かつて有機稲作の技術として検討されたこともあるが、イネの生育や収量に影響を及ぼすため、広く普及するには至らなかった。しかし、イネのない休耕田の雑草抑制を考えれば、極めて有効な手法である。私たちの目を楽しませてくれるレンゲが、水と出会うことによって雑草まで抑制してくれれば、まさに一石二鳥の技術となるだろう。

(稲垣栄洋)



レンゲ植生の有無による休耕田の雑草